

スプレー缶の危険性！！

Case. 2

火災事例

乗用車の運転者が、冷却スプレーを車内で使用した後、タバコを吸おうとライターに火を点けた際に、車内に滞留していた冷却スプレーの可燃性ガスに引火し、運転席の男性と助手席の男性が火傷を負ったもの



使用されたスプレー缶は、15分の走行時間に全て使い切り、中は空の状態。容量は500mlで、スプレー缶の中では容量が大きい方。

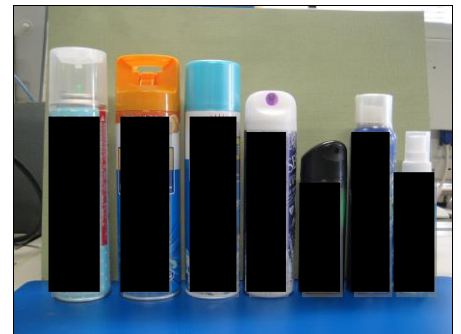


運転席側の窓は、15cmほど開いていたが、運転中ずっと開けていたわけではなく、タバコを吸おうとした時に開けたもので、換気の効果はあまりなく、車内には可燃性ガスが滞留していた。

スプレー缶について

充填されている高圧の噴射剤によって、内容物が外に噴射されます。噴射剤として以前は、不燃性で扱いやすいフロンが広く用いられていましたが、オゾン層破壊の問題から、フロンが使用禁止になるとともに、LPG（液化石油ガス）やDME（ジメチルエーテル）といった可燃性の液化石油ガスが、代表的な噴射剤となりました。

種類もさまざまで、消臭剤・芳香剤、クリーナー類、化粧品、医薬品、塗料、殺虫剤、防錆剤、潤滑剤、曇り止め、解氷剤、室内消臭芳香剤など多くの製品があります。



■過去の市内のスプレー缶の火災を調べてみました。

- ・ガスコンロを使用中、近くで缶のガス抜きをしていたところ火災になった。
- ・ガス給湯器を使用中、近くで缶のガス抜きをしていたところ火災になった。
- ・スプレー缶の内圧を上げるためにバーナーで暖めていたところ缶が破裂
- ・ゴミ収集車の火災

※参考ですが・・・カセットボンベでも上記同様の火災が同じくらい発生しています！！

スプレー缶
年1～2件発生

カセットボンベ
年1～2件発生

■スプレー缶に書いてある「使用上の注意」

- 製品の特性上、使用中または直後は引火するおそれがあるので、タバコの火などを近づけない。
- 車内など風通しの悪い空間で大量に使用しない。

火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。

- ①炎や火気の近くで使用しないこと。
- ②火気を使用している部屋で大量に使用しないこと。
- ③高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所やストーブ、ファンヒーター等の近くなど温度が40度以上となる所に置かないこと。
- ④火の中に入れてはいけないこと。
- ⑤使い切って捨てること。